

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年5月31日現在

機関番号：14403

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2009～2011

課題番号：21500935

研究課題名（和文） 学校を基盤とするカリキュラム開発を推進するリーダー教師のためのハンドブックの作成

研究課題名（英文） Development of the handbook on School-Based Curriculum Development for the leader teachers.

研究代表者

木原 俊行 (KIHARA TOSHIYUKI)

大阪教育大学・教育学部・教授

研究者番号：40231287

研究成果の概要（和文）：学校を基盤とするカリキュラム開発の成立と発展のためには、リーダーシップが重要である。筆者らは、カリキュラム・リーダーシップ概念に注目し、その構造をモデル化するとともに、それに該当する事例を収集・整理した。そして、実践的リーダーが、この概念を理解し、自身の実践に活用するためのハンドブックの作成を試みた。20名を越えるリーダー教師たちに、ハンドブックを評価してもらった結果、その実践的有効性、さらなる改善課題が明らかになった。

研究成果の概要（英文）：Leadership is quite important for teachers to be engaged in School-Based Curriculum Development(SBCD). We paid special attention to and made the structural model of the curriculum leadership through literary review. In addition, we made some case studies on the curriculum leadership in practice. On the basis of the results from those researches, we developed the handbook on SBCD for the leader teachers. More than 20 leader teachers used the handbooks for formative evaluation. It is proved that the handbook is the useful for the teachers to understand and coordinate SBCD in their schools, and should be improved partially.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	1,300,000	390,000	1,690,000
2010年度	900,000	270,000	1,170,000
2011年度	600,000	180,000	780,000
年度			
年度			
総計	2,800,000	840,000	3,640,000

研究分野：総合領域

科研費の分科・細目：科学教育・教育工学，教育工学

キーワード：教育工学，カリキュラム開発，カリキュラム・リーダーシップ，事例研究，国際比較研究，カリキュラム・マネジメント，ハンドブック

1. 研究開始当初の背景

我が国の小中学校の新教育課程は、大綱化・弾力化の方向にある。例えば、「総合的な学習の時間」は、ねらいは示されているけれども、その目標・内容・活動等は、各学校において適切に定めることとされている。また、

教科学習についても、学習指導要領では多くの教科の目標や内容が複数学年に及んで示されており、それらの年間指導計画における具体的な位置づけは、学校の裁量に委ねられている。つまり、我が国の小中学校の教育課程

の編成は、「学校を基盤とするカリキュラム開発 (School-Based Curriculum Development)」の性格を強めている。「学校を基盤とするカリキュラム開発」は、教育工学研究の重要な研究分野の1つである。これまでも、例えば1970年代のカリキュラム開発セミナーを通じて、また同80年代の学校研究の診断・評価研究において、それを推進するための手続きやそれを評価するための観点・項目が提案されてきた<水越敏行(1985)『授業改造と学校研究の方法』明治図書など>。

そして、この発想や技法は、今日、社会が学校に強く要請する「学力向上」という側面からも、たいへん重要である。というのも、例えば子どもの生活・学習の実態、施設設備等の状況は、地域や学校によって大きく異なる。それゆえ、子どもたちの学力を高めるための術は、必然的に、「学校を基盤とする学力向上アプローチ」にならざるをえない<木原俊行(2008)「授業づくりと学力形成の今日的課題」『解放教育』2008年5月号、明治図書>。

学校を基盤とするカリキュラム開発を推進する上で、その成否の鍵を握るのが、「リーダーシップ」である。既に、この営みにはカリキュラムについて専門的知識をもつ教員、すなわち「教育課程経営のスペシャリスト」が必要であると主張されている<小島弘道(2003)『教務主任の職務とリーダーシップ』東洋館出版、p.148>。また、研究代表者の木原は、平成15・16年度、科学研究費補助金・基盤研究(C)による助成(課題番号15500633、研究代表者：木原俊行)により、我が国のいくつかの学校を対象とする事例研究やそれらと英国の事例との比較を通じて、カリキュラム・コーディネータの役割をモデル化した。

さらに、研究代表者の木原は、平成18~20年度、科学研究費補助金・基盤研究(C)による助成(課題番号18500720、研究代表者：木原俊行)によって、リーダーシップの重層性を踏まえて、複数のリーダーが協力してカリキュラム開発にあたる事例を収集し、それらを比較検討して、学校を基盤とするカリキュラム開発における「リーダーシップグループ」の役割をモデル化した。これらの研究によつて、カリキュラム開発を推進するリーダー役

を果たす教師たちに必要とされる実践的知識をある程度整理することができた。

同時に、これらの研究を進める過程で、カリキュラム開発のリーダーたる教師、例えば研究主任の力量形成が極めて重要であることが明らかになった。ところが、カリキュラム開発を牽引するための実践的知識等を学ぶ場は、例えばいくつかの大学の大学院のカリキュラム開発コースなどに確認できるが、そうした機会を得られる教師は、限定されている。

2. 研究の目的

本研究では、学校を基盤とするカリキュラム開発を推進する立場にある教師たちが、自学自習でそれに必要とされる実践的知識を獲得するためのハンドブック、すなわち『学校を基盤とするカリキュラム開発を推進するリーダー教師のためのハンドブック』の作成に取り組むことにした。

3. 研究の方法

平成21年度は、まず、5月に研究代表者及び同分担者が集い、同年度の研究計画を再確認した。

次いで、6月から2月にかけて、1)各教科における言語力の育成、2)活用型学力＝思考力・判断力・表現力の育成、3)ICT活用を試みている小中学校を訪問し、カリキュラム開発の実際に関する資料(研究・研修計画、年間指導計画、指導案、実践記録など)を収集した。また、その内容をカリキュラムの革新性、独自性、継続発展性などを視点として分析し、当該学校におけるカリキュラム開発の進展状況を明らかにした。

さらに、3月には、米国のノースカロライナ大学を訪問し、そこでカリキュラム・リーダーシップについての講義を繰り広げている研究者とこの概念に関して意見を交換するとともに、それを扱っている講義を見学し、担当者に聞き取り調査を実施した。また、メンフィスの小中学校を訪問し、授業を見学したり、学校長や研修主任等に聞き取り調査を実施したりして、学力向上を目指した、カリキ

キュラム開発の実践事例を収集した。なお、それに先だって、関連する文献を収集し、カリキュラム・リーダーシップの概念を再検討するとともに、それと他の概念（カリキュラム・マネジメント、専門的な学習共同体等）の関係性を吟味した。

以上のような研究活動により蓄積した知見を総合して、ハンドブックの内容と構成の第一次案及び執筆担当を決定するとともに、執筆内容の素案を作成した。

平成22年度は、平成21年度の事例収集等の成果に基づき、ハンドブックの原稿を作成した。その内容構成は、「1.カリキュラム開発の理論とモデル」「2.カリキュラム開発の動向」「3.我が国におけるカリキュラム実践のすぐれた事例ーカリキュラム・リーダーシップ論を視点に」「4.カリキュラム実践に関する意思決定の演習ー」「5.所属校のカリキュラム実践の省察」「6.カリキュラム実践のための参考文献」「7.発展的な学習への誘い」となった。例えば、「4.カリキュラム実践に関する意思決定の演習」には、4つの演習問題を用意した。それらは、事例の背景を記した「問題」、それらの「解答」を記入するパート、そして「模範解答と解説」から成る。7つの章及び「本ハンドブックの使い方」を合わせると、70ページの小冊子となった。

なお、我が国の小中学校は、同時期、新教育課程への移行期にあり、新しい実践が次々と生み出しているため、先導的な試みを遂行している学校を訪問し、そこで営まれているカリキュラム開発の実践に関する資料（研究・研修計画、年間指導計画、指導案、実践記録など）を収集した。また、その内容をカリキュラムの革新性、独自性、継続発展性などを視点として分析して、当該学校におけるカリキュラム開発の進展状況を明らかにし、ハンドブックの内容に反映させた。

研究の中間的な成果を日本カリキュラム学会等の全国大会で報告するとともに、いくつかの雑誌等で発表した。

平成23年度は、平成22年度に試みた形成的評価の結果を踏まえて、研究代表者及び同分担者で、ハンドブックの内容と構成を協議し、最終案を決定した。例えば、紹介する事例や演習問題のレパトリーを増やすことが決

まった。また、理論に関する章については、いっそう分かりやすい表現に努めるとともに、図表によるビジュアルな表現を増やすことなども共通理解した。

夏から秋にかけて、ハンドブックの新しい内容・構成に即して、原稿を執筆するとともに、表紙等のデザインについても検討した。

なお、研究の中間的な成果を7月に催された日本カリキュラム学会の年次大会で報告した。また、いくつかの教育雑誌や教育図書において、ハンドブックの内容のもととなった、研究代表者及び研究分担者によるカリキュラム・リーダーシップに関する研究の知見を示した。

4. 研究成果

ハンドブックのプロトタイプ版の形成的評価を経て、最終的には、「1.カリキュラム開発の理論とモデル」「2.カリキュラム開発の動向」「3.わが国におけるカリキュラム実践のすぐれた事例ーカリキュラム・リーダーシップ論を視点に」「4.カリキュラム実践に関する意思決定の演習ー」「5.所属校のカリキュラム実践の省察」「6.カリキュラム開発のための参考文献」「7.発展的な学習への誘い」という7つの章から成る、90ページを越える冊子ができあがった。

完成したハンドブックを、22人のカリキュラム開発を推進するリーダー教師等を評価するためのアンケートに回答してもらったり、インタビューに応じたりしてもらった。その結果、学校を基盤とするカリキュラム開発を推進するリーダーにとって有用なハンドブックが作成されたことが明らかになった。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計9件）

- ①木原俊行，子どもの成長・発達に資する小中連携，学校運営，査読無，第51巻，2009，12-15
- ②木原俊行，授業研究で共に育つ，教育研究，査読無，第64巻，2009，18-21
- ③木原俊行，「授業研究」の効果的な推進をどう図るか，教職研修，査読無，第459号，2010，38-41
- ④矢野裕俊，海外における初年次教育の動向

- ーアメリカ・英国・香港の調査からー，査読無，第80巻，2010，14-21
- ⑤木原俊行，教師教育研究における教育工学的アプローチの可能性と課題，日本教師教育学会年報，査読有，第20巻，2011，28-36
- ⑥木原俊行，チーム力を高めるための校内研修の企画・運営をどう工夫するか，教職研修，査読無，第467号，2011，44-47
- ⑦矢野裕俊，地域・家庭との「チーム」をどうマネジメントするか，教職研修，査読無，第467号，2011，48-51
- ⑧木原俊行，今求められる校内研修の企画・運営上の工夫，中等教育資料，査読無，第907巻，2011，10-13
- ⑨木原俊行，思考力・判断力・表現力を育成する授業のポイント，初等教育資料，査読無，第880巻，2011，6-9

[学会発表] (計4件)

- ①矢野裕俊・木原俊行・森久佳，我が国におけるカリキュラム・リーダーシップ実践の展開ー実践的リーダーの役割に注目してー，日本カリキュラム学会第20回大会，2009年7月12日，神田外語大学
- ②矢野裕俊・木原俊行・森久佳，カリキュラム・リーダーシップに関する理論の構造的把握の試みーPLC(Professional Learning Community)との接点に注目してー，日本カリキュラム学会第21回大会，2010年7月3日，佐賀大学
- ③ Toshiyuki Kihara, Hirotoshi Yano & Hisayoshi Mori, Towards the Reinterpretation of Curriculum Leadership with a Focus on Its Relation to the Professional Learning Community, 15th Biennial of the International Study Association on Teachers and Teaching, 2011年7月6日，University of Minho
- ④矢野裕俊・木原俊行・森久佳・廣瀬真琴，学校を基盤とするカリキュラム開発を推進するリーダー教師のためのハンドブックの開発ーカリキュラム・リーダーシップの概念を基盤としてー，日本カリキュラム学会第22回大会，2011年7月17日，北海道大学

[図書] (計2件)

- ①北神正行・木原俊行・佐野享子，学文社，学校改善と校内研修の設計，2010，173
- ②木原俊行，ミネルヴァ書房，活用型学力を育てる授業づくり，2011，202

6. 研究組織

(1) 研究代表者

木原俊行 (KIHARA TOSHIYUKI)
大阪教育大学・教育学部・教授
研究者番号：40231287

(2) 研究分担者

矢野裕俊 (YANO HIROTOSHI)
武庫川女子大学・文学部・教授
研究者番号：80182393
森久佳 (MORI HISAYOSHI)
龍谷大学・短期大学部・准教授
研究者番号：00413287

(3) 連携研究者

廣瀬真琴 (HIROSE MAKOTO)
鹿児島大学・教育学部・講師
研究者番号：70530913